

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：食物栄養学科

資格：准教授

氏名：大滝 直人

研究分野	研究内容のキーワード
公衆栄養学、栄養疫学	栄養調査・食育
学位	最終学歴
博士（食品栄養学）、修士（食品栄養学）	東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 教育内容の理解度の確認	2011年4月～現在	数人の受講生を適宜選び、質問を与える。個々人の理解の確認をすることができた。
2. オフィスアワーの活用による教育支援	2011年4月～現在	教育支援として、オフィスアワーを周知することで授業の質問などを聞き取る機会を増やした。
3. 管理栄養士国家試験対策	2011年4月～現在	管理栄養士国家試験対策のため、過去に出題された問題をパターン化を行い、国家試験対策の重点課題を明らかにした。
4. 視聴覚教材を用いた教育	2011年4月～現在	授業で用いる教科書冊子の他に、適宜パワーポイントによるスライドを作成し、視覚的な教材を用いて説明を加えた。
5. シラバスの活用による教育目標の達成度の確認	2011年4月～現在	シラバスを示し、教育目標の達成度を示すことで当該科目の全体像とその位置付けを確認した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 管理栄養士	2001年07月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学（改訂第7版）	共	2020年3月30日	南江堂	編集者 吉池信男, 林宏一, 執筆者 木村安美, 大滝直人他 第6章の一部を担当した
2. テキスト食物と栄養科学シリーズ 6 公衆栄養学	共	2011年03月	朝倉書店	八木典子, 早川史子, 池田小夜子, 伊藤裕美, 今枝奈保美, 大滝直人, 北川郁美, 木戸康博, 近藤今子, 鈴木朋子, 西村公子, 東あかね, 増田佳昭, 山本由喜子, 吉野佳織 同書は管理栄養士養成施設向けの教科書として作成された。その中の公衆栄養マネジメントについて分担執筆した。PP. 87-92(単著)
<b>2 学位論文</b>				
1. I市におけるフラボノイド摂取量と酸化LDLへの影響について	単	2009年03月	東京農業大学(全88ページ)	I市においてフラボノイド摂取量を調査し、さらにフラボノイドの中でもケルセチンは酸化LDLと負の関連を持つことを明らかにした。以上の横断研究の結果から、ケルセチン投与(たまねぎ)介入試験を行い、酸化LDL低下作用について検討を行った。
<b>3 学術論文</b>				
1. RELATIONSHIP BETWEEN ECONOMIC SECURITY AND SELF-RATED HEALTH IN ELDERLY JAPANESE RESIDENTS LIVING ALONE	共	2018年6月	J Nutr Health Aging, Vol. 22, No. 6, pp. 695-699	N. OTAKI, N. TANINO, M. YOKORO, M. YANO, M. AKITA, H. UEMURA, M. MAEDA, K. FUKUO 独居高齢者における所得満足感と主観的健康感との関連について明らかにした。
2. Urinary Sodium-to-Potassium ra	共	2018年	Hypertens Res, 2018 N	2型糖尿病患者における肥満が尿中ナトリウム/カリ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
tio and Serum Asymmetric Dimethylarginine Levels in Patients with Type 2 Diabetes (査読あり)			ov;41(11):913-922.	ウム比と心血管疾患リスク因子である血中ADMA濃度の関係に与える影響について横断研究を行った。非肥満群において尿中ナトリウム(Na)/カリウム(K)比は血中ADMA濃度と正相関を示した。血中ADMA濃度は動脈硬化進展指標と正相関を示した。尿中Na/K比に影響する食事因子としては、麺類、加工肉、調味料摂取が正相関、緑黄色野菜及び乳類が負の相関であった。以上より、心血管疾患予防のため2型糖尿病患者において積極的な減塩、高カリウム摂取教育が必要である可能性を示唆した。(Yokoro M, Minami M, Okada S, Yano M, <u>Otaki N</u> , Ikeda H, Fukuo K)
3. 中高年女性における食品群別摂取量からみる食事と血糖値の関連性	共	2017年	日本健康体力栄養学会誌	秋山聡子, 大滝直人, 関千代子, 君羅満 中高年女性における血糖値に影響を与える食物摂取パターンについて明らかにした。
4. Relationship between Breakfast Skipping and Obesity among Elderly: Cross-Sectional Analysis of the HEIJO-KYO Study.	共	2017年	J Nutr Health Aging.	<u>Otaki N</u> , Obayashi K, Saeki K, Kitagawa M, Tone N, Kurumatani N. 高齢者における朝食欠食と肥満との関連について明らかにした。
5. 地域在住女性高齢者における腎機能と内皮型一酸化窒素合成酵素遺伝子一塩基多型の関連 (査読あり)	共	2016年	栄養科学研究第5号pp.11-18武庫川学院	地域在住女性高齢者109名を対象に、G894T多型(rs179983)と腎機能との関連を検討した。Tアリル群はGG群に比し、eGFRが有意に低値を示し、CKD患者割合が有意に高かった。Tアリル群において、eGFRとHDL-Cとの間に有意な正の相関を認めた。さらに、Tアリル群において清涼飲料水を飲む習慣がある場合、HDL-Cは有意に低値を示したが、この関連はGG群では認められなかった。以上よりeNOS遺伝子G894T多型は、女性高齢者において環境因子との相互作用によりeGFRに影響を与える可能性を示唆された。(岡田 薫、横路 三有紀、矢野めぐむ、今村友美、 <u>大滝直人</u> 、谷野 永和、福尾 恵介)
6. Melatonin Secretion and Muscle Strength in Elderly Individuals: A Cross-Sectional Study of the HEIJO-KYO Cohort.	共	2016年	J Gerontol A Biol Sci Med Sci.	Obayashi K, Saeki K, Maegawa T, Iwamoto J, Saka i T, <u>Otaki N</u> , Kataoka H, Kurumatani N. メラトニン排泄量と筋力との関連について明らかにした。
7. Association of Serum Asymmetric Dimethylarginine With Muscle Strength and Gait Speed: A Cross-Sectional Study of the HEIJO-KYO Cohort.	共	2016年	J Bone Miner Res.	Obayashi K, Saeki K, Maegawa T, Sakai T, Kitagawa M, <u>Otaki N</u> , Kataoka H, Kurumatani N 血清ADMAと筋力・歩行速度との関連について明らかにした。
8. 独居高齢者における主観的健康感と社会参加との関連	共	2014年	栄養科学研究雑誌	大滝直人, 谷野 永和, 植村弘巳, 横溝佐衣子, 前田美也子, 福尾 恵介 独居高齢者の主観的健康感と社会参加との関連について明らかにした。
9. Epidemiological study on the involvements of environmental factors and allergy in child mental health using the Autism Screening Questionnaire (査読付)	共	2013年1月	Research in Autism Spectrum Disorders, 2013; 7(1):132-140	Shibata Aki, Hitomi Yoshitaka, Kambayashi Yasuhiro, Hibino Yuri, Yamazaki Masami, Mitoma Junko, Asakura Hiroki, Hayashi Koichi, <u>Naoto Otaki</u> , Sagara Takiko, Nakamura Hiroyuki 自閉症スクリーニング調査を行い、生活環境要因とアレルギー疾患との関連について検討を行った。本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
10. 秤量法食事調査による中高年女性における微量ミネラルの摂取状況 (査読付)	共	2012年12月	日本健康体力栄養学会誌, 2012; 17(1):32-38	大滝直人, 秋山聡子, 田路千尋, 中谷弥栄子, 林宏一, 君羅満 日本食品標準成分表2010を用いて、中高年の女性の微量ミネラルの新規収載成分の摂取量およびその寄与食品について検討を行った。本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
11. Distribution and major sources of flavonoid intakes in the middle-aged Japanese women. (査読付)	共	2009年05月	Journal of clinical biochemistry and nutrition, 2009;44(3):231-238	<u>Naoto Otaki</u> , Kimira Mitsuru, Kastumata Shin-ichi, Uehara Mariko, Watanabe Shaw, Suzuki Kazuharu 日本人の中高年女性のフラボノイド摂取量を調査し、さらに横断研究によりケルセチンと酸化LDLとの負の関連を持つことを明らかにした。本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
12. Pharmacokinetics of an Equol Supplement in Humans (査読付)	共	2007年	ANTI-AGING MEDICINE, 2007; 4(2):57-62	Shaw Watanabe, <u>Naoto Otaki</u> , Mariko Uehara, Kazuharu Suzuki, Tomomi Ueno, Shigeto Uchiyama, Shichi Mizuno 青年期の健康な男女を対象にエコールの体内動態について検討を行った。エコールの半減期の平均は83分であり、尿中への排泄率は40から50%であった。今後は、エコールの生体内への影響についてさらなる検討が必要であると考えられた。本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
13. 青年期の健康人における実践可能な減塩に関する研究 -リーフレット配布における健康教育効果の検討- 第4報 (査読付)	共	2005年	二葉栄養専門学校研究収録, 2005;2:11-22	大滝直人, 上田 玲子 実践可能な健康教育を目標としてリーフレット配布による減塩指導を行った。対象者には4日間のリーフレット配布の簡易的な方法による減塩指導を行った。介入前、介入1週間後、4週間後および16週間後の4回の食事調査を行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
14. 青年期の健康人における実践可能な減塩に関する研究 - 塩分摂取に関する意識と行動について - 第2報 (査読付)	共	2004年	二葉栄養専門学校研究収録, 2004;1:33-51	本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。 志村裕子, 都築栄伊子, 大滝直人, 上田玲子 青年期の男女の塩分摂取に関する意識と行動の関わりについて検討した。食塩摂取に関わる知識、態度、行動についてのアンケート調査を行った。 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
15. 青年期の健康人における実践可能な減塩に関する研究 - 健康教育の視点を取り入れた減塩 指導の検討 - 第3報 (査読付)	共	2004年	二葉栄養専門学校研究収録, 2004;1:53-72.	都築栄伊子, 志村裕子, 大滝直人, 上田玲子 食塩摂取の要因および減塩指導の効果を上げる要因を探ることを目的とした。食塩摂取に関わる知識、態度、行動に関するアンケート調査と減塩指導介入前、介入直後、介入1ヵ月後の3回の食事調査を行った。 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
16. デンプンの消化過程における唾液アミラーゼの役割 - 唾液アミラーゼによる消化に関する予備的検討 - (査読付)	共	2004年	二葉栄養専門学校研究収録, 2004;1, 83-91	大滝直人, 足立堯 ヒト口腔内で咀嚼を受けた咀嚼物を用いてpH3.0およびpH5.0における唾液アミラーゼの安定性と米飯中のデンプンの分解率に関して予備的な検討を行った。 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
17. 青年期の健康人における実践可能な減塩に関する研究 - 減塩における栄養素摂取量の変化 - 第1報 (査読付)	共	2004年	二葉栄養専門学校研究収録, 2004;1:17-31	大滝直人, 都築栄伊子, 上田玲子 青年期の男女に減塩指導を行いナトリウム摂取量の変化を観察するとともに、食塩摂取量の減少に伴うエネルギーおよび栄養素摂取量の変化について観察を行った。 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 一人暮らし高齢者への地域支援活動の取り組み—栄養・食生活を中心に—	共	2018年6月16日	第16回日本予防医学会学術総会	研究対象地域の地域一人暮らし高齢者の現状と課題について報告を行った。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 管理栄養士養成課程学生におけるコンピテンシー到達度と一般学生セルフエフィカシーに影響する要因の探索	共	2020年9月2日	第67回日本 栄養改善学会学術総会	管理栄養士養成課程学生におけるコンピテンシー到達度と一般学生セルフエフィカシーに影響する要因について検討を行った。 玉木咲子 西村優希、大滝直人他
2. 地域高齢者における身体機能の経年変化	共	2020年9月2日	第67回日本 栄養改善学会学術総会	地域高齢者における身体機能の経年変化について検討を行った。 大滝直人 横路三有紀他
3. 地域高齢者におけるイソフラボン摂取量と骨格筋機能との関連	共	2020年9月2日	第67回日本 栄養改善学会学術総会	地域高齢者におけるイソフラボン摂取量と骨格筋機能との関連について検討を行った。 西村優希 大滝直人他
4. 高齢者の朝食欠食と認知機能低下の関連：平城京コホート縦断分析	共	2020年9月2日	第67回日本 栄養改善学会学術総会	高齢者における朝食欠食が認知機能に与える長期的影響について検討を行った。 石塚理香 大滝直人他
5. 一人暮らし高齢者における主観的健康感が生活満足度に与える影響	共	2019年3月16日	第26回日本健康体力栄養学会大会	秋田倫子、大滝直人、谷野永和、横路三有紀、矢野めぐむ、福尾恵介 一人暮らし高齢者において、主観的健康感は生活満足度に影響を与えることが明らかとなった。
6. 地域高齢者における食環境と身体状況の関連	共	2018年6月16日	第16回日本予防医学会学術総会	秋田倫子、大滝直人、谷野永和、今村友美、北島見江、武岡健次、横路三有紀、矢野めぐむ、福尾恵介 地域高齢者を取り巻く食環境と身体状況との関連について検討を行った。買い物と体重変化の有無との関連はみられた。しかし、食環境と肥満、やせ、低栄養傾向の発生頻度との関連はみられなかった。
7. 管理栄養士養成施設における食品衛生監視員資格取得に関する意識調査	共	2018年6月16日	第16回日本予防医学会学術総会	横山愛、西村優希、小川彩、松田依果、秋田倫子、大滝直人、大西孝司、林宏一 管理栄養士養成施設における食品衛生監視員資格取得に関する実態調査を行い、食品衛生監視員への就業意欲を高める要因を明らかにした。
8. ひとり暮らし高齢者における生活満足度とひとり暮らし期間の関連	共	2017年9月	第64回日本栄養改善学会学術総会	秋田倫子、大滝直人、横溝佐衣子、谷野永和、福尾恵介 ひとり暮らし高齢者における生活満足度とひとり暮らし年数との関連について明らかにした。
9. 一人暮らし高齢者の食事摂取状況に関する実態把握	共	2017年9月	第64回日本栄養改善学会学術総会	大滝直人、谷野永和、秋田倫子、今村友美、福尾恵介 一人暮らし高齢者の食事状況について明らかにした。
10. 一人暮らし高齢者における社会参加と生活満足度	共	2016年5月	第70回日本栄養・食糧学会大会	大滝直人、谷野永和、植村弘巳、前田美也子、福尾恵介 高齢者の生活満足度と社会参加との関連について明らかにした。
11. 地域一人暮らし高齢者における朝食と身体活動量との関連	共	2016年3月	第23回日本健康体力栄養学会大会	大滝直人、谷野永和、今村友美、横路三有紀、矢野めぐむ、武岡健次、北島見江、福尾恵介 地域一人暮らし高齢者における朝食欠食は朝食欠食

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
12. Association between perceived health status and subjective socioeconomic status among the Japanese older adults	共	2015年5月	12th Asian Congress of Nutrition	N. Otaki, N. Tanino, S. Yokomizo, M. Maeda, K. Fukuo 高齢者の主観的健康感と経済状況について明らかにした。
13. 主観的健康感と地域社会組織との関連	共	2014年8月	第61回日本栄養改善学会学術総会	大滝直人, 谷野永和, 横溝佐依子, 福尾恵介 地域ひとり暮らし高齢者を対象に、主観的健康感と地域社会組織との関連について検討を行った。地域社会組織への参加は主観的健康感と有意に関連していた。
14. 食品及び健康食品のテレビ広告の放送頻度	共	2014年8月	第61回日本栄養改善学会学術総会	大西由香, 大滝直人, 林宏一 食品及び健康食品のテレビ広告の放送頻度について検討を行った。健康食品のテレビ広告は、食品広告に比較して毎時間一定の頻度で放送されている傾向にあった。
15. 網膜の厚みと睡眠の質との関連：生体リズムに関する高齢者大規模コホート研究（平城京スタディ）の横断解析	共	2014年7月	日本睡眠学会第39回定期学術集会	宮田季美枝, 大林賢史, 佐伯圭吾, 大滝直人, 刀根庸浩, 西智, 緒方奈保子 高齢者の網膜の厚みと睡眠の質との関連について検討を行った。網膜の厚みは睡眠潜時と有意に関連していた。
16. 就寝前室温低下と高齢者の入眠潜時延長についての関連：生体リズムに関する高齢者大規模コホート研究（平城京スタディ）の横断解析	共	2014年7月	日本睡眠学会第39回定期学術集会	佐伯圭吾, 刀根庸浩, 大滝直人, 宮田季美枝, 西智, 大林賢史 就寝前室温と主観的および客観的入眠潜時の関連について検討を行った。入眠前室温の調整は高齢者の入眠潜時を短縮する可能性が示唆された。
17. 白内障手術と軽度認知障害の睡眠障害と独立した関連：生体リズムに関する高齢者大規模コホート研究（平城京スタディ）の横断解析	共	2014年7月	日本睡眠学会第39回定期学術集会	宮田季美枝, 大林賢史, 佐伯圭吾, 大滝直人, 刀根庸浩, 西智, 緒方奈保子 高齢者の白内障手術と睡眠状況と認知機能の関連について検討を行った。白内障手術は睡眠障害とは独立して軽度認知障害と有意に関連していた。
18. 日常生活における日中および夜間光暴露量：生体リズムに関する高齢者大規模コホート研究（平城京スタディ）の横断解析	共	2014年7月	日本睡眠学会第39回定期学術集会	大林賢史, 刀根庸浩, 大滝直人, 宮田季美枝, 西智, 佐伯圭吾 高齢者の日常生活における光暴露量について検討を行った。光暴露量は、年齢、性別、クロノタイプと有意に関連していた。
19. 朝食欠食と肥満の睡眠障害と独立した関連：生体リズムに関する高齢者大規模コホート研究（平城京スタディ）の横断解析	共	2014年7月	日本睡眠学会第39回定期学術集会	大滝直人, 大林賢史, 刀根庸浩, 宮田季美枝, 西智, 佐伯圭吾 高齢者における朝食欠食と、睡眠状況および肥満との関連について検討を行った。朝食の欠食は、睡眠状況とは独立して肥満と有意に関連していた。
20. 食育実施率から検討する児童館における食育推進の要因	共	2013年9月	第60回日本栄養改善学会学術総会	李麻有, 田路千尋, 大滝直人, 林宏一, 大西孝司 都道府県別に児童館で行う食育活動の実施率の調査を行い、地域の実情に応じた食育活動の支援方法の探索を行った。
21. 高齢期女性における鉄・亜鉛の摂取量と血清濃度および貧血との関連	共	2013年9月	第60回日本栄養改善学会学術総会	秋山聡子, 大館順子, 大滝直人, 君羅満 高齢期女性における鉄および亜鉛の血清濃度と貧血との関連について検討を行い、血清鉄および亜鉛濃度の低下を予防する要因について検討を行った。
22. 日本人中高年女性の亜鉛摂取量と貧血との関連	共	2013年9月	第60回日本栄養改善学会学術総会	田路千尋, 大滝直人, 秋山聡子, 中谷弥栄子, 林宏一, 君羅満 日本人中高年女性の亜鉛摂取量と貧血との関連について検討を行った。亜鉛摂取量の不足と貧血との関連がみられた。
23. 地域における児童館の食育展開の支援方法に関する検討	共	2012年9月	第59回日本栄養改善学会学術総会	椎名玲子, 大滝直人, 田路千尋, 本間淑恵, 林宏一, 大西孝司 児童館における食育推進のための支援方策について検討を行った。食育活動の支援方策には、スタッフへの食育に関する情報提供および研修機会などが必要であることが考えられた。
24. 中高年女性における1日間秤量法によるヨウ素、セレン、クロム、モリブデンおよびビオチンの摂取状況	共	2012年9月	第59回日本栄養改善学会	大滝直人, 秋山聡子, 田路千尋, 中谷弥栄子, 林宏一, 君羅満 中高年女性のヨウ素、セレン、クロム、モリブデンおよびビオチンの摂取量およびその寄与食品について検討を行った。
25. 青年期女性の食事パターンと摂食障害リスクとの関連について	共	2011年11月	第9回日本予防医学会学術総会	大滝直人, 田路千尋, 柴田亜樹, 人見嘉哲, 神林康弘, 日比野由利, 相良多喜子, 中村裕之, 林宏一 摂食障害傾向のある者の食事パターンについて検討を行った。その結果、摂食障害傾向がある者は菓子類の摂取が多く、脂質摂取量が高いことが明らかとなった。
26. 児童館における食育活動の実施状況と地域食育推進計画との関連について	共	2011年09月	第58回日本栄養改善学会学術総会	大滝直人, 田路千尋, 本間淑恵, 椎名玲子, 林宏一 県別に児童館の食育活動の実施状況についての比較および地域食育推進計画との関連について調査・解析を行い、児童館を中心とする地域における食育活

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
27. 地域における児童館の食育活動推進に関わる要因の検討	共	2010年12月	第8回日本予防医学学会 学術総会	動の推進に必要な社会環境要因について検討を行った。 椎名玲子, 本間淑恵, 田路千尋, 大滝直人, 林宏一, 大西孝司 児童館における食育活動を推進するために、児童館厚生員の食育についての意識・態度・行動に関する調査・解析を行い、児童館における食育活動を支援する要因について検討を行った。
28. 能登半島地震で被災した仮設住宅入居高齢者の精神的ストレスと食行動	共	2010年12月	第8回日本予防医学学会 学術総会	相良多喜子, 神林康弘, 人見嘉哲, 日比野由利, 柴田亜樹, 大滝直人, 林宏一, 中村裕之 能登半島地震で被災して仮設住宅に入居した高齢者の精神的ストレスと食行動に関する調査・解析を行い、被災後の中長期的な支援対策や予防法について検討を行った。
29. 幼児期の食生活・生活習慣が子どもの心身に与える影響について	共	2010年12月	第8回日本予防医学学会 学術総会	柴田亜樹, 神林康弘, 人見嘉哲, 日比野由利, 大滝直人, 林宏一, 中村裕之 幼児およびその保護者を対象に、食生活および心身の健康状態を調査・解析し、幼児期の子どもに必要な食育方法について検討を行った。
30. 児童館における食育活動の実施状況	共	2010年11月	第57回日本学校保健学会	田路千尋, 本間淑恵, 林千尋, 椎名玲子, 大滝直人, 林宏一, 大西孝司 児童館を運営する地方自治体の人口規模によって食育活動の実施状況について比較を行い、自治体の人口規模による食育活動の支援方法について検討を行った。
31. 児童館での食育活動実施に影響を与える要因の検討	共	2009年12月	第7回日本予防医学学会 学術総会	林千尋, 本間淑恵, 大滝直人, 田路千尋, 林宏一, 大西孝司 児童館を取り巻く社会環境を明らかにし、児童館における食育活動の支援方法について検討を行った。
32. 児童館での食育活動実施に影響を及ぼす社会環境要因について	共	2009年11月	第56回日本学校保健学会	大滝直人, 本間淑恵, 林千尋, 田路千尋, 林宏一, 大西孝司 児童館における食育推進を図るため、児童館の食育活動に必要な設備環境について調査・解析を行い、食育活動における児童館の設備環境要因について検討を行った。
33. 食育活動推進のための児童館の社会的役割に関する研究	共	2009年11月	第56回日本学校保健学会	田路千尋, 本間淑恵, 大滝直人, 林千尋, 林宏一, 大西孝司 児童館における食育推進を図るため、児童館と他の社会組織との連携・協働についての調査・解析を行い、食育活動における児童館の社会組織環境要因について検討を行った。
34. 児童館における食に関する子育て支援活動の現状	共	2009年09月	第56回日本栄養改善学会 学術総会	林千尋, 本間淑恵, 大滝直人, 田路千尋, 林宏一, 大西孝司 児童館における食に関する支援活動について調査・解析を行い、児童館における食育活動の推進に寄与する要因について検討を行った。
35. 青年期女性における食品中ケルセチンの血中酸化LDL濃度への影響	共	2009年09月	第56回日本栄養改善学会 学術総会	大滝直人, 秋山聡子, 君羅好史, 勝間田真一, 上原万里子, 鈴木和春, 君羅満 ケルセチンを多く含む食品(たまねぎ)を短回投与し、ケルセチンの体内動態および血中酸化LDL濃度への影響について検討を行った。
36. 食事バランスガイドによる食事評価の試み	共	2009年09月	第56回日本栄養改善学会 学術総会	中谷弥栄子, 佐藤裕子, 大滝直人, 君羅好史, 石原淳子, 君羅満 食事バランスガイドによる料理レベルでの食事量の評価にを行い、食事バランスガイドを用いた食事教育方法について検討を行った。
37. 短期イソフラボン・フラクトオリゴ糖併用摂取が成人男女のエコオール産生能に及ぼす影響	共	2009年09月	第56回日本栄養改善学会 学術総会	上原万里子, 串田修, 大滝直人, 石見佳子, 君羅好史, 秋山聡子, 勝間田真一, 鈴木和春 ヒトにおけるフラクトオリゴ糖のエコオール産生能に及ぼす影響について検討を行った。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 食育活動推進のための児童館の社会環境に関する研究	単	2011年3月	平成22年度科学研究費 補助金学内奨励金 研究 成果報告書 武庫川女子 大学, PP16-17	大滝直人 児童館における食育活動の状況と地域食育推進計画との関連について調査・解析し、食育活動に影響を与える社会環境を把握し、児童館における食育活動に必要な社会環境要因について検討を行った。
2. 能登半島地震による高齢者の長期的な健康被害の現状, 要因, および, 予防法と支援対策 ~仮設住宅入居や生活面と健康の関わりに	共	2010年3月	平成22年度金沢大学能 登半島地震学術調査部 会報告書, pp. 108-119	神林康弘, 田中純一, 村田隆史, 大滝直人, 柴田亜樹, 林宏一, 久保良美, 人見嘉哲, 井上英夫, 中村裕之 能登半島地震による高齢者の長期的な健康被害の現

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
ついて～				状を調査・解析して健康被害の要因を把握し、必要な支援対策や予防法を検討を行った。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 一人暮らし高齢者の介護予防に向けた食生活の実態把握	単	2016年	若手研究(B)	一人暮らし高齢者の介護予防に向けた食生活の実態把握を行う
2. 食育ソーシャルサポートおよび食育ソーシャルネットワークの構築のための基盤的研究	単	2012年	平成24年度科学研究費補助金武庫川女子大学奨励金	都道府県別に児童館と地域コミュニティとの協働・連携状況について調査を行い、児童館を中心とする食育推進のための地域連携および協働に関する基礎的要因について検討を行った。児童館での食育活動の展開には、人的資源として、保健所や市町村などの行政組織が中心となって地域連携・協働を図り質の高い食育活動を推進していくことが重要であると示唆された。
3. 食育活動推進のための児童館の社会環境に関する検討	単	2010年	平成22年度科学研究費補助金武庫川女子大学奨励金	都道府県別に児童館の食育活動の実施状況について比較検討を行うことを目的とした。児童館と保健所、保健センターおよび学校などの社会組織との協働を図ることによって、地域食育活動はさらに活発になることと示唆された。
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			